

令和7年度 豊南小学校 学校評価（自己評価書・学校関係者評価書）

中期目標	重点努力目標（評価項目）	自己評価	総合評価	達成状況と成果	関係者評価	学校関係者の意見・要望	今後の改善方策 次年度への課題 <small>★学校関係者評価を受け</small>
<p>「学ぶ喜び」を実感させ、主体的・対話的な授業づくりを、基礎とした確かな学力を育成する</p>	<p>基礎基本の定着</p> <ul style="list-style-type: none"> 「にこにこトーク」を充実させ、聴く・話す力の向上を図る。 「やればできる」を実感させ、基礎学力の向上を図るために全校漢字、算数チャレンジを計画的に実施する。 	A	B	<ul style="list-style-type: none"> にこにこトークの内容を担当が工夫して提示することで、子どもが興味をもち、聴く・話す力が着実についている。 各種チャレンジや小テストを計画的に実施することで、子どもたちの基礎学力の向上を図ることができている。 問題解決的な学習を取り入れた授業改善を行ってはいけるが、子どもが自らの意思で判断・決定する力はまだまだ伸びる余地がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 教員のスキルアップが更に必要という言葉に期待している。 判断力や決断力には際限がないように感じる。 子どもたちの成長を感じる。授業も工夫されている。 校外学習や出前授業などを増やして、子どもたちに体験させてほしい。 小学生なので、目標設定をあまり高くせず、子どもらしさを伸ばしてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 聴く・話す力を更に向上させるよう教員のスキルアップを図る研修を計画する。 体験的な活動を増やし、子どもが自ら学べるよう問題解決的な学習などの授業改善を日常的に行っていきたい。
	<p>問題解決的な授業づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題解決的な学習・体験的な学習・ICT機器の効果的な活用を組み合わせ、自らの意思で、判断・決定していく場面を意図的に設定する授業づくりを心がける。 	B					
<p>たくましい心を育成し、温か気持ちでかわり合える学校・学級づくりに努める</p>	<p>居場所づくりと絆づくりの充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 「自分から、相手を見て、笑顔で」のあいさつを習慣化する。 計画的な道徳授業の実践等を通して、自己肯定感を高めるとともに、自己有用感を高める。 	B	A	<ul style="list-style-type: none"> 外部からのお客さんに対する挨拶はよくできている。日常の子どもどうしの挨拶も、気持ちよくできるようなはたらきかけていきたい。 道徳は、自己肯定感や有用感を高めるため、まとまりをもった実践を行う必要がある。 たてわり活動を通して、思いやる気持ちが高まってきた。特に、高学年のリーダーとしての自覚が高まったことで下級生により影響を与えている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 挨拶は本当によくできている。上級生の子が、自然と下級生に声がけしている姿がよい。 自己肯定感や自己有用感は週に一度の道徳の授業だけでは定着しない。他教科においても道徳的な内容を取り入れてもらいたい。 たてわり活動は、上級生と下級生がふれ合うことで刺激を受けるので、成長につながるため、今後もぜひ続けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 道徳や特別活動を中心に、自己肯定感や自己有用感を高めるためのカリキュラムをより工夫して活動していく。 たてわり活動を継続することで、異学年交流を活発化し、集団の質を高めるとともに、思いやりのあるリーダー育成に努めていく。
	<p>異学年集団活動によるリーダー育成</p> <ul style="list-style-type: none"> たてわり活動を中心とした常時活動の充実を図り、共感的人間関係を構築し、思いやりと感謝の心を育成する。 	A					
<p>安全で安心できる教育環境づくりに最善を尽くす</p>	<p>自然防止と早期対応</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての教職員ですべての子どもを見まもり、いじめ・不登校・虐待・問題行動に対して、組織として早期発見に努め、未然に防ぐ学校・学級づくりに努める。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> すべての職員ですべての子どもを見守る意識が高く、組織として機能的な対応ができている。 安全教育については、計画的に行い、意識を高めている。学校外での安全意識（登下校時のマナー、ヘルメット着用などの徹底）も高めたい。 情報モラル教育においては、GIGA タブレットの推進と並行して、今後も各学年で何を身につけさせるのかを系統的に指導する必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員の努力には脱帽している。不登校児童やいじめが起きない学校は聞かないと聞かぬが、あきらめない努力を続けてほしい。 しっかり取り組んでいることは、間違いないが、保護者が不安を感じているのも事実である。保護者に学校の取り組み内容や熱意がしっかり伝わるような工夫が必要だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめや不登校に関しては、保護者の理解を得られるよう取り組み内容を発信していく必要がある。 安全対策は、「いのちを守る」重要な部分である。より現実を想定した避難訓練を行っていく。また、情報モラル教育の内容を工夫し、効果のある実践を増やしていく。
	<p>安全教育と情報モラル教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全教育や保育園との合同避難訓練等の体験活動を通し、「自分のいのちは自分で守る」ことができる力を伸長する。 情報モラル教育を毎学期実施し、場面に応じた適切な判断を育成しながら、子どもの情報活用能力を高める。 	A					
<p>近隣小中・地域との連携を深め、地域・保護者からの信頼と協力が得られるよう努める</p>	<p>小中連携教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中一貫（高豊中学校区）・3小連携（富士見・高根・豊南）による持続可能で効果的な教育交流をすすめる。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 小規模校指定校となり、小中連携教育の推進として小中一貫・3小連携がより重要となった。内容が毎年重ならないように工夫し、年間計画に沿って実践できている。 ホームページのレイアウトや更新頻度を意識し発信することができた。今後も、地域との連携・協力を密にし、再来年度のコミュニティ・スクール開始に向け、魅力ある教育活動を模索していく必要を感じている。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 効果のある良策は続けていってもらいたい。 保小の交流が増えていることに感謝している。園児や保護者の不安が取り除け、期待が膨らむ。 自然豊かな豊南校区、その特色を生かして、家庭地域と連携し、豊南らしい教育活動を展開してほしい。 ホームページの内容が工夫されており見やすい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の特性を生かした教育課程を更に工夫していく。 コミュニティ・スクール開始に向け、地域の人材を教育課程にどう生かしていくのかを十分に考え、ボランティア募集など人材バンクの整備を進めていく。
	<p>地域に開かれた教育活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭・地域との連携・協力を密にし、地域に開かれた魅力ある教育活動をよりいっそう展開することで、信頼される学校づくりを推進する。 	A					
<p>教職員が心身ともに健康で、教育のプロとしての資質向上、働き方改革への高い意識をもち、チームとして学校を支える職場づくりに努める</p>	<p>授業力と資質向上</p> <ul style="list-style-type: none"> 学び合い、高め合う教職員集団を目指し、日々の授業改善のための研修を計画的に実施する。 	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 研修や授業研究などが、教職員にとって有益となるような内容で計画的に実施できている。 小規模校ならではの、相談しやすい職場の雰囲気があり、チームとして諸課題への解決に取り組み、互いを補完し合う協働体制ができている。 協働体制と支援員の活用により、ここ数年で教職員の負担は大きく軽減している。更に子どもと向き合う時間を確保したい。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 温かい職場づくり、チームとしての課題解決がうまく機能していると思う。 小規模校ならではのよさが見られ、校長先生はじめ全職員が全校児童の名前を覚えて声かけする姿に感動した。 ここ数年で教員の負担は軽減されていると思うが、まだ教育現場はひとりではないのではと思う。教職員の皆さんが心身ともに健康でゆとりをもって児童に向き合うことを期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務支援員の仕事内容を見直し、更なる有効活用を進めていく。 教育的価値、効果を見定め、無理が生じている活動などは、思い切った見直しを図り、教職員が心身ともにゆとりをもって子どもと向き合うようにしていく。
	<p>働き方改革の継続と推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 何でも相談できる温かい職場づくりに努めるとともに、行事のもち方の工夫や会議の効率化など、個々のタイムマネジメントへの意識の向上を図る。 「チーム豊南」の協働体制と支援員の活用をすすめる、教職員の負担を軽減し、子どもと向き合う時間の確保に努める。 	A					

【 自己評価 A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：あまり達成されていない D：ほとんど達成されていない 】
 【 総合評価 自己評価をもとに 上記のA・B・C・D で評価 】
 【 関係者評価 A：適切である B：概ね適切である C：あまり適切ではない D：適切とは言えない 】